

Theme Symposium | スポーツ文化研究部会 | 【課題B】人々の生活に根ざした多様なスポーツ文化をいかに醸成していくか

Practicing "Diversity": Between Ideal and Difficulty

Chair: Kazuyoshi Shuto, Rieko Yamaguchi

Thu. Aug 31, 2023 10:10 AM - 12:10 PM RY303 (良心館3階 R Y 3 0 3 番教室)

本部会では、「人びとの生活に根ざした多様なスポーツ文化をいかに醸成してゆくか」を上位課題として、1年目は体育学に潜む暴力性に焦点をあて、既存の学問のパラダイムや制度設計に存する課題を省察し、2年目はパラスポーツの実践を手がかりにしつつ、スポーツにおける／をとおした「多様性と調和」がいかにして可能になるのかについて議論した。集大成となる今年度は、「多様性」を実践することの理念と困難さについて議論し、多様なスポーツ文化を醸成するための課題や指針を提示・共有することを目的としている。特にシンポジウムでは、社会運動や学校文化、行政の現場における「多様性」の実践によってもたらされる変化を確認するとともに、その実践の具体的な課題を明らかにすることで、既存の価値や行動への問い直しの機会につながることを期待している。

[スポーツ文化-SB-1]What Diversity Practices from LGBTQ+ Activities

*Fumino Sugiyama¹ (1. New Canvas Inc.)

<演者略歴>

1981年東京都生まれ。フェンシング元女子日本代表。

NP法人東京レインボープライド共同代表理事を務めながら、全国各地でLGBTQに関する啓発活動を行う。2021年よりJOC並びに日本フェンシング協会の理事も兼務。著書に「元女子高生、パパになる」（文藝春秋）など。

「多様性が大事」と言葉で言うのは簡単であるが、多様な人々の多様な意見は多様すぎてまとまらない。また「マイノリティの意見を大切に」と言いながら多数決で決めるわけにもいかず、多様性社会推進における意思決定は非常に困難である。そのような中で、性的少数者の権利獲得のための人権啓発イベントであり、多様性の祭典である「東京レインボープライド」はこの10年で急成長を遂げた。新宿二丁目のLGBTQ+タウンでお店お営むママや全国各地のLGBTQ+当事者から、一部上場企業、各国大使館や国会議員などを幅広く巻き込み、2012年に5000人だった参加者は2023年には24万人を超えアジア最大級となり、LGBTQ+の認知拡大に大きく貢献している。本シンポジウムでは、多様な立場や意見を取り入れながらひとつのイベントに集約する過程において、どのような課題と向き合い実践してきたかを紹介する。また、NPO法人東京レインボープライドがコンソーシアムメンバーを務める「プライドハウス東京」プロジェクトにも触れることで、LGBTQ+とスポーツが直面する課題を共有し、社会×スポーツ×多様性の議論を深めたい。